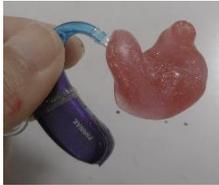
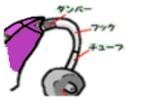
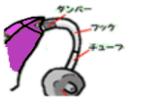


補聴器調べ チェック項目

作成：立川市立第八小学校 きこえとことばの教室

	確認すること		チェックの観点	備考
児童と一緒にやること	汚れ		<ul style="list-style-type: none"> 補聴器クリーニングシートや清浄綿などでイヤーマールドの表面の汚れをふき取る。 穴の中の汚れはブラシでかきだす。 補聴器本体は中に水分が入らないように、やさしく汚れが気になる部分のみふき取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ブラシは、補聴器購入時についてくるお手入れセットの中に入っている。家でも時々掃除してもらうようにご家庭に伝える。やわらかい歯ブラシなどでもOK ※綿棒は、中の芯が固くイヤーマールドの穴が広がったり、欠けたりしてしまうのでNG
	電池	 	<ul style="list-style-type: none"> 片方ずつ外して、ゲージを見て残量を確認する。（両耳を一度に外すと会話ができないため） 聞こえ方がおかしいと思ったら、自分でチェックする習慣がくと良い。 <p>←低学年児童にはこちらのタイプの方が分かりやすい 赤・黄色…交換☹️、緑…OK😊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※自分で電池交換周期を知っておくと、切れる前に交換したり、故障時に早く気づいたりすることができる ※通常は大体2週間が目安。ただし、古い電池やロジャーと接続している場合はもっと早く切れる。2, 3日で切れる場合は補聴器の故障が疑われる。 ※きこえの教室でも貸し出し用の予備電池を購入して常備しておくといよい。 ※児童はランドセルや筆箱の中に、電池チェッカーと予備電池を入れて、すぐに換えられるようにしておく（交換場所は学校ごとに相談）。
	イヤーマールド		<ul style="list-style-type: none"> 割れていないか、汚れはつまっていないか。 内部の汚れがひどい場合、超音波洗浄機で洗浄。（ベント穴※1がある場合は、細いのでつまっていないか要注意） 	<ul style="list-style-type: none"> ※超音波洗浄機での洗浄の仕方（眼鏡用のものでよい） ①補聴器からイヤーマールドのみ外して、洗浄機に入れる。 ②中性洗剤を洗浄機の水に一滴たらす。 ③スイッチオン。汚れが浮いてくるのが見て分かる。 ④水でよく洗って、タオルなどで水分をふき取る。 ⑤ブロワーで中の水を飛ばす。ティッシュでこよりを作ってさらにふき取る。 ⑥目視で、水滴が残っていないか確認。補聴器の向きを確認して取り付け。
教員がやること	音		<ul style="list-style-type: none"> ステブスコープや試聴用チューブで自分の音声を聞いて確認する。 毎回聞いていると故障がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※音がしない時は… 電池は入っている？向きは合っているか？イヤーマールドが耳垢でつまっていないか？ ※音が小さい、こもる、ガーガー言う、異音が出る時は… 電池残量が少ないか、湿気がこもっている可能性あり。新しい電池に変えてもだめなら、乾燥機に何度もかけてみる。それでも変わらなければ、お店で修理へ。
	ロジャーの接続		<ul style="list-style-type: none"> ロジャーのマイク穴部分を指でさわって、ガサガサ鳴るか。 ロジャーの充電残量は十分あるか。 	ロジャーの音が大きすぎる場合は、ロジャーと補聴器のマイクで拾う音との割合をお店で変えてもらうことができる。
	チューブ		<ul style="list-style-type: none"> 割れてゆるんでいたたり、劣化したりしていないか。 	水滴がたまる場合は、RIONの防滴チューブに交換したり、糸を入れたりすると良い。
	フック		<ul style="list-style-type: none"> ダンパー※2が外れていないか。 フックのねじがゆるんでいないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ダンパーが外れた場合は、お店ですぐに交換してもらえる。 ※フックがゆるんでいると、補聴器が落ちやすくなるので要注意。
	ハウリング		<ul style="list-style-type: none"> 普段からハウリングをしていないか本人に確認。 児童が装着後、試聴用チューブをイヤーマールドに近づけてわずかに音漏れしている場所がないかチェック。 	わずかな音漏れであれば、お店で硬質レジンで盛って対応が可能。それでもダメなら作成しなおし。低学年はすぐに耳が大きくなるので、頻繁に作り替えが必要。手帳がある場合は1割負担。ない場合は、補聴器の買い替えと同じタイミングなら助成が適応される場合がある⇒自治体の補助金の制度を知っておく必要がある。

○補聴器点検は自分で将来管理できるようになることが目的。少しずつ一人でできることを増やしていく。

○異常がなくても1年に1度補聴器会社にオーバーホール（分解して総点検）に出すとよい。無料。汗や砂が多く入りやすい運動会後や夏休み明けに出すとよい。

○補聴器はスマホと同じでどんどん新しい機能が付いた機種が登場。壊れていなくても補助の出る5年ごとに買い替えるのがよい。4年過ぎたあたりから、情報を集め始め、試聴をして、5年になったらすぐ買い換えられるようにするのがおすすめ。

※1 ベント穴…音のこもり感を軽減させるために、細い穴をイヤーマールドの穴と別に開けている場合がある。

※2 ダンパー…音質調整のために入れる場合がある。色によって抵抗の度合いが違う。埃が溜まらないように注意。